



The 62nd Annual Scientific Session of the Japanese College of Cardiology
第62回日本心臓病学会学術集会

ファイアサイドシンポジウム13

Fireside Symposium 13

日付 2014年9月27日(土) 19:15~20:15

会場 第9会場 仙台国際センター
1F 小会議室1

〒980-0856 仙台市青葉区青葉山無番地

『和温療法： 現状と今後の展開』

座長 井上 晃男 先生

獨協医科大学心臓・血管内科 教授・診療部長

演者 鄭 忠和 先生

和温療法研究所 所長／獨協医科大学 特任教授



共催：第62回日本心臓病学会学術集会
フクダ電子株式会社

和温療法:現状と今後の展開

和温療法の開発は1989年に遡り、25年の歳月を経てようやく臨床に役立つ治療法として承認されつつあります。和温療法の特徴は、限りなく安全で優しい治療法であること、その適応は重症心不全を含む多彩な難治性疾患であることです。慢性心不全に対しては日本循環器学会ガイドラインにクラス1として記載されています。先進医療専門家会議で高度先進医療Bの承認を受け、全国19施設の参加による152例の重症心不全に対する多施設無作為比較臨床研究を、有害事象は認めずに本年4月終了しました。データ解析が終了すれば保険適応の申請をする予定です。また、閉塞性動脈硬化症（ASO）のFontaine分類IV度の重症例に和温療法を応用して、劇的な改善を示して下肢切断を免れた症例も稀ではありません。現在、ASOに対する保険適応の拡大に向けて、重症ASOに対する多施設前向き臨床治験を準備中です。

本シンポジウムでは、心不全およびASOに対する和温療法の有用性と効果発現の機序を明らかにして、なぜ和温療法は様々な難治性疾患に効果を発揮するのか、参加者の皆さんと一緒に活発な討論をしたいと願っています。

